

早期景気観測調査

【6-7月期 調査結果概要報告書】

平成27年8月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成27年7月15日(水)～31日(金)
4. 調査対象： 当所会員155事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 107件
7. 有効回答率： 69.0%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

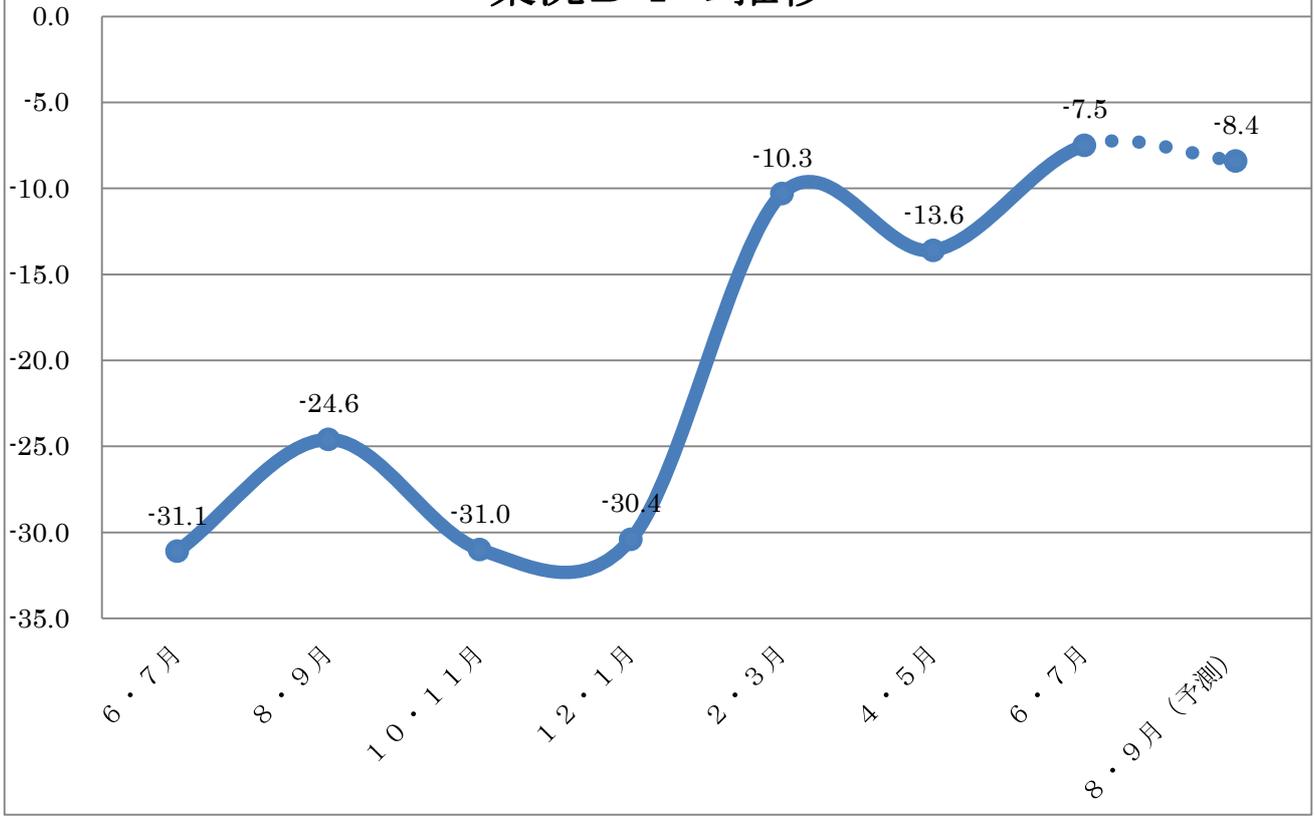
【6－7月期の動き】

業況DIは改善するも、業種によりバラつきが見られ、コスト増が採算を圧迫する状況が続く。向こう3ヶ月の業況は概ね横ばいの見通し。

6－7月期の全業種総合業況DIは▲7.5と、前期から6.1ポイントの改善となった。業況を除く売上、採算、仕入単価、従業員、金融貸出しの各項目DI値は、前期（4-5月期）から悪化しているものの、ここ一年では比較的高い水準を保っている。しかし依然としてコスト増による採算の悪化が見られるほか、今回の比較対象である前年同期は、消費税引き上げの影響で業況が落ち込んでいた時期でもある為、業況DIの改善幅と景気回復には多少のズレがあると推察される。業況DIは改善の流れが見られるが、今期は業種によりバラつきが大きく、景気全体の本格的な回復とは言えない状況である。特に原材料費や人件費の今後の動向には注視が必要である。向こう3ヶ月の見通しについては、ほぼ横ばいの見通し。

業種別では、製造業・卸売業・小売業で業況が改善し、建設業では悪化、サービス業は横ばいとなった。製造業は業況DI3.6と前期から20.8ポイントの大幅な改善となり、2年ぶりにマイナス局面を脱した。売上、採算DIはそれぞれ▲10.3→▲3.6（2項目とも同値）と2期連続の改善となったが、仕入単価DI（▲39.3）の動きは依然として低い水準を推移する。卸売業は4期連続の業況改善となり、業況DIは31.3（前期比+11.3ポイント）。仕入単価DIは▲30.0→▲25.0と前期から改善となったが、採算DIは15.0→▲25.0と前期比▲40.0ポイントの著しい悪化となり、再びマイナス局面となった。従業員DIは18.8と前期から人手不足感は改善しつつあるものの、依然として人手不足の状況が続いている。小売業は業況DI▲33.3と前期から7.4ポイントの改善となった。しかし売上、採算、仕入単価、金融貸出しの各DI値はそれぞれ悪化に転じている。中でも採算DIは▲40.0と17.8ポイントの大幅な悪化となった。建設業は3期連続の悪化となり、業況DIは▲43.8（前期比▲8.5ポイント）。採算DIは▲50.0と前期から14.7ポイントの大幅な悪化となった。従業員DIは6.3（前期比▲11.3ポイント）と、人手不足感は改善したが、公共工事・民間工事共に受注が減少しているとの声が多く寄せられている。サービス業の業況DIは17.6と前期から横ばい。売上、採算は前期からそれぞれ悪化となったものの、プラス局面を維持している。仕入単価DIは▲41.2と前期から横ばいで、同業種の中では唯一マイナスのDI値となっている。

業況D I の推移

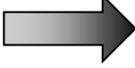


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

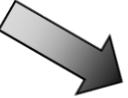
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「」(改善)と表示しております。
従業員D I は、従業員が不足している場合、「」(改善)と表示しております。

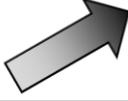
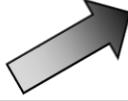
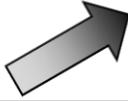
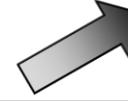
◆全業種総合

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲7.5	▲8.4	▲14.0	▲23.4	▲39.3	8.4	0.9

6-7月期の全業種総合の業況D I は、**▲7.5** (前期比+6.1ポイント) となり、改善に転じた。しかし売上、採算、仕入単価、従業員、金融貸出しの各項目のD I 値は全て前期から悪化に転じている。中でも、低い水準を推移している仕入単価D I の更なる悪化や、採算D I の▲13.4ポイントという大幅な悪化に、常態化する仕入単価の上昇が採算を圧迫している現状を見て取る事ができる。業況の先行きに関しては、若干の悪化を見通している。

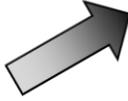
◆ 業種別

製造業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
3. 6	14. 3	▲3. 6	▲3. 6	▲39. 3	▲3. 6	▲7. 1

業況DIは▲17. 2→3. 6と20. 8ポイントの大幅な改善となり、プラス局面に転じた。製造業の業況DIがマイナス局面を脱したのは実に2年ぶり。売上、採算DIもそれぞれ前期より6. 7ポイントずつ改善した。しかし、仕入単価DIについては、他の項目と比較して低水準に留まっている。向こう3ヶ月の業況については、更なる改善を見通しており、仕入単価DIについても改善を見通している。

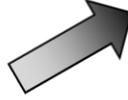
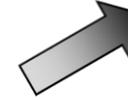
建設業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲43. 8	▲50. 0	▲50. 0	▲50. 0	▲50. 0	6. 3	6. 3

業況DIは▲43. 8（前期比▲8. 5ポイント）と3期連続の悪化となり、5業種中最も低い水準となった。各項目のDI値は、金融貸出しDIが前期比+0.4ポイントの微増、売上DIが前期比+2. 9ポイントの改善となったが、残る採算、仕入単価、従業員の各DI値はそれぞれ悪化となっている。とりわけ悪化が激しかったのは採算DIで、前期から▲14. 7ポイントの大幅悪化となった。

向こう3ヶ月の業況については更なる落ち込みを見込んでいる。

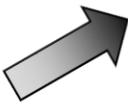
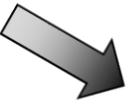
卸売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
31. 3	0. 0	12. 5	▲25. 0	▲25. 0	18. 8	18. 8

業況DIは31. 3（前期比+11. 3ポイント）とプラス幅を大きく伸ばした。卸売業の業況DIは今期で4期連続の改善となる。しかし売上、採算、仕入、従業員の各DI値はそれぞれ悪化に転じている。仕入単価DIは前期から5. 0ポイントの改善となっているが、向こう3ヶ月については大幅な悪化を見越している。従業員DIは前期比▲7. 2ポイントと人手不足感は弱まっている。

今後については、業況改善の流れは一服するものと見られる。

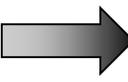
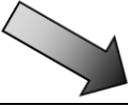
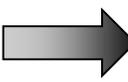
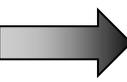
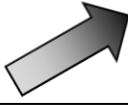
小売業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 36.7	▲ 40.0	▲ 40.0	10.0	▲ 3.3

業況は▲33.3と前期比+7.4ポイントの改善となった。しかし各DI値については売上、採算、仕入単価、金融貸出しDIにおいて前期より悪化に転じている。中でも採算DIは大きく落ち込んでおり、前期から17.8ポイント悪化となっている。常態化している仕入単価の高騰や個人消費の弱さがDI値に反映されていると推察される。

向こう3ヶ月の業況は若干の改善を見通す。

サービス業

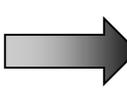
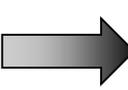
業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
17.6	5.9	17.6	0.0	▲ 41.2	17.6	0.0

業況DIは17.6と前期から横ばいとなっており、プラス面を維持した。各項目のDIを見てみると、売上、採算が前期から悪化、仕入単価、従業員が横ばい、金融貸出しが改善となった。とりわけ売上DIは前期比17.7ポイントと大幅に悪化している。悪化となった売上、採算DIを始め、仕入単価を除く各DI値はプラス局面を保っているものの、仕入単価DIにおいては前期に引き続き、低水準となっている。

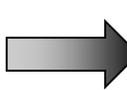
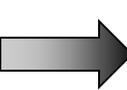
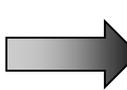
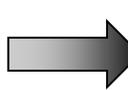
向こう3ヶ月の業況は悪化を見込むものの、プラス水準を維持している。

◆ 業種別詳細

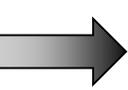
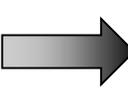
製造業（食品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（家具）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

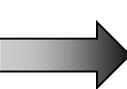
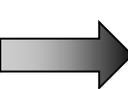
製造業（工業製品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

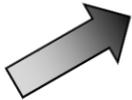
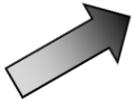
製造業（宝飾）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

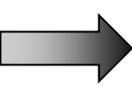
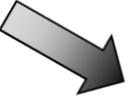
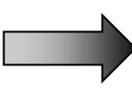
製造業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

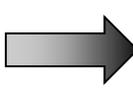
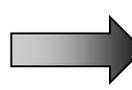
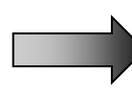
建設業（建築）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

建設業（土木）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

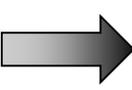
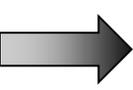
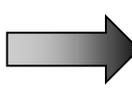
建設業（鉄鋼）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

卸売業（食品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

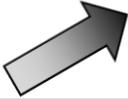
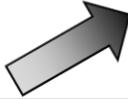
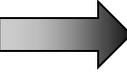
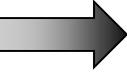
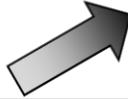
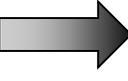
卸売業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

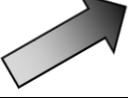
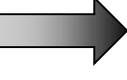
卸売業（その他）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

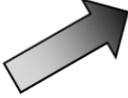
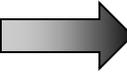
小売業（大型店）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

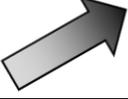
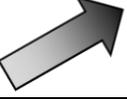
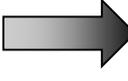
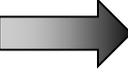
小売業（食料品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

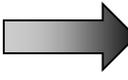
小売業（事務用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

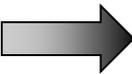
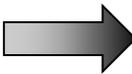
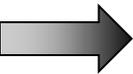
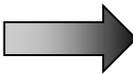
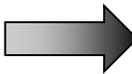
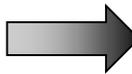
小売業（趣味・日用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

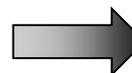
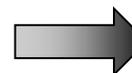
小売業（家電）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

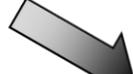
サービス (ホテル・旅館)

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業 (観光)

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業 (飲食その他)

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

【製造業】

製造業（食品）

- ・7月に入り中元の出遅れがあったが中旬より盛り返す。昨対ギフト売上95%。
- ・夏は日本酒の需要が落ち込むが、夏休みということもあり、例年はバス等で賑わいがある。しかし、今年は集客状況が厳しく4月から引き続き業況は変わらず。

製造業（家具）

- ・東南アジアからの観光客の激増。円安株高による大企業の好業績によって、なんとなく景気は堅調を維持している雰囲気。しかし、これは政府の景気浮揚の為の財政出動によるところが大きい様な気がしている。オリンピックまではまあいいが、それ以降は国の借金増大で火の車になるのではないかな。

製造業（工業製品）

- ・取引先が大手の輸出産業（特に中国向けの関連事業）である場合は、先が見えない為注意すべきではないかと思われる。
- ・昨年同様、業界は厳しい経営環境が継続している。当社においては付加価値の高い新商品の販売が増加してきており、好転の兆しが出てきている。
- ・一部半導体の市場（小物）は落ち着いた様子だが、特別な技術を持ったところは変わらず、本年一杯忙しいとのこと。自動車も一部落ち着いたが、大型関係はまだまだかなりの忙しさ。

【卸売業】

卸売業（食品）

- ・高温が続き、売上の的には厳しい時期になっている。パート社員の時給上昇で、今までより人を集めるのが難しくなっている。
- ・輸入商品の高騰、天候悪化等バランスがとれておらず、家計は追いついていない。政府が発表しているほど、家計や企業はまだまだであると言える。この業界も変わらず厳しいところ。

卸売業（その他）

- ・円安により仕入単価だけでなく、仕入先への出張費も上昇してきている。総合スーパーの長期となる売上減は総合スーパーの食品特価を招き、売上・売場共に減で厳しい状況。

【建設業】

建設業（建築）

- ・地元業者の高齢化に対応できている業者と、そうでない業者の二極化が進んでいる。また、受注活動がメーカーの協力ありきの感があり、各社技術者不足、人手不足がそれを更に助長している。
- ・建設業界は県、市町村とも発注量の減少が顕著に見られる地域が多い。今後経営危機を迎える企業

が多く発生する恐れあり。債務負担行為などによる発注を計画すべきではないか。

- ・良い会社と悪い会社の格差が増している。

建設業（土木）

- ・県公共工事は発注減（県では前年度並みと発表しているが中北地域における予算は減である。）。民間工事でも甲府周辺では発注減の為、受注活動は県外を含めて広域に渡って行わざるを得ない。受注産業としては辛い年。
- ・公共、民間工事の発注が悪く今後の計画が立たない。消費税の駆け込みなども終わり最悪の状況。業界としては安かろう、悪かろうの競争激化で今年一年が終わりそう。

建設業（鉄鋼）

- ・原材料高値変わらず、県発注物件予算回らず繰り越し多し。

【小売業】

小売業（大型店）

- ・昨年は増税後の不調でしたので今期は好調。
- ・パート・アルバイトが不足。募集をしても応募が少なくあっても高齢者（65歳以上）が非常に多い。未経験者で65歳以上だと、採用は非常に難しい。

小売業（趣味・日用品）

- ・商店街の人通りはほぼないという状況が続いているが、好転の機はなかなか見つからない。自店の顧客をつなぎとめることが精一杯。
- ・相変わらず厳しい経営環境が続いている。

【サービス業】

サービス業（ホテル）

- ・昨年はインターハイの需要が非常に大きかった。
- ・6月、7月初旬は旅館の利用客も少なかったが、中盤から後半頃は思っていたより来客が多かった。南アルプス北岳、仙丈岳、鳳凰三山縦走など個人で登山に来る人（外国人）が多かった。クロアチア、パリ、ドイツ、韓国、台湾から来ている。

サービス業（観光）

- ・団体客が特に少ないようだった。
- ・人手不足は否めない状況であり、課題である。
- ・売上高は、前年7月に南アルプス登山バスの通行止めによる影響を受けていたため、今年度は増加の見込み。仕入れは軽油単価の前年同期からの下落によるもの。

サービス業（飲食その他）

- ・うなぎ屋は夏になり繁忙期を迎えた。忙しいのはありがたいのだが、私の衰えや老化から注文を全て受けきることができない。お客様にはなかなか理解してもらえないかもしれない。